

IV ソヴェート愛國主義と統計學

—ソヴェート統計學界の自己批判について—

I 自己批判の社會的機縁

ソヴェート經濟統計に對して外國からくだされた批判の論調に對して、きわめて對蹠的なものは、1948年以降、ソヴェート統計學界で展開されている自己批判である。

外國からの批判が、ソヴェート經濟統計の統計論的な、數字處理の上の、不正確を主點とし、その際純正科學の政策的考慮への屈伏が暗示されているのに對して、ソ連邦では、逆に、いわゆる數理的形式的偏向が批判され、統計の社會主義的實踐への從屬、したがって政治への密着ということが要求されている。これはいわゆる「ブルジョア」學界とソヴェート學界との學風的差異をきわだてて示すものとして、われわれには興味深いものがある。その何れがまさるかについては、しばらくその判断をさしひかえたいと思う。

ソヴェート統計學界の自己批判は、一口にいってみれば、1946年8月以後のコスモポリティズム批判の一部分である。1946年8月以後ソヴェート連邦においてきわめて活潑に、又、きわめて多面的に、文學、音樂、哲學、經濟學の各分野に互って展開された、自己批判活動を概括する言葉として、*Космополитизм* という言葉が沈澱・凝固したのは、いつの頃からであるか、私は、詳にしない。この言葉は、英語でいえば *Cosmopolitanism* であり、しいて譯せば「世界人主義」である。あるいは「無國性主義」とした方が、ぴったりするかもしれない。それが具體的にはいかなることを意味するかといえば、*Космополитизм* とは、第二次大戰が終結し、自働小銃を持ったファシストがたおれるとともに、ソヴェート國民が、極惡のファシストのみがたおれただけであって、二つの體制の鬭争はまだおわっていないこと、今まで手を握ってきた資本主義諸國との間にもいわゆる「二つの體制」の問題はあり、それが戦後の状態の下で新たな展開に移ったことについて充分なる注意を拂わず、戦争中の友好關係からかえって、西ヨーロッパ及びアメリカ文化へのあこがれが特に各界のインテリゲンチヤを囚え、西ヨーロッパおよびアメリカ文化への心酔が目だち、ソ連邦指導者の呼號する社會主義體制の質的な無條件的な優位と祖國文化の傳統とを忘れた、とされ

ることをいうのであり、したがって *Космополитизм* 批判とは、かかる風潮、考え方、傾向への批判であり、反撃である。この様な意味に理解された *Космополитизм* は特に、帝政時代において、日常の會話にフランス語を話し、イギリスからとりよせた粉で焼いたパンをたのしんだということに挿話的に現われているロシアのインテリゲンチヤの傳統、西歐文化への *inferiority complex* と自國の文化を地方文化とする意識につきまといわれたロシアのインテリゲンチヤの傳統、の中にも深くその歴史的な根をおろしており、したがってかかる偏向は、文化の各界に特に著しく現われたとされた。1946年8月、黨の中央委員會自ら、かかる偏向の摘發と批判とにのり出し、爾後それは今日にも及んでいる。¹⁾ 1946年8月、文學雜誌『星』《Звезда》及び『レニングラード』《Ленинград》の批判にはじまり、戯曲および諸劇場のレポーターをもその對象としてまきこんだ批判は、翌1947年6月哲學の分野にも及び、アレクサンドロフ Г. Ф. Александров の哲學史教科書《История западноевропейской философии》の批判討論會が10日間にわたってジュダーノフ А. Жданов の司會の下に開かれ、經濟學の分野における大きな出来事たるヴァルガ Е. С. Варга の批判も亦、かかる批判の一部分を成している。音樂批判の諸問題も亦、かかるものとして理解される。

Варга の著書「第二次世界大戰の結果としての資本主義經濟における諸變化」《Изменения в экономике капитализма в итоге второй мировой войны》の批判討論會は、1947年5月の7.14.21日の3日間に互って開催され、ソヴェート經濟學界全體に互って、きわめて多岐な問題を提出したことは既にわれわれの知る所でもある。それを機縁としておこった統計學界の自己批判がここでの主題であるが、これについては、いま、わ

1) см. Г. Маленков, О деятельности Центрального Комитета Всесоюзной Коммунистической партии (большевиков), 《Информационное Соповещение Представителей Некоторых Компартий в Польше в конце Сентября 1947 года》, 1948 г., стр. 148-150.

れわれの利用し得る文獻の範囲内では、1948年に始まるものとされる。以下に、われわれの眼にふれた限りでの關係文獻を掲げる。²⁾

- (1) コズロフ「統計理論の社會主義的建設の實踐からの遊離に對して——クレイニン著『統計學概説』批判——」『計畫經濟』1948年第2號
- (2) 「統計の分野における理論活動を高めよ」『計畫經濟』1948年第3號 卷頭論文
- (3) 1948年3月—5月 科學アカデミヤ經濟研究所擴大學術會議における統計理論の問題を主題とする全面的討議
- (4) 1948年8月 レーニン農業アカデミヤの生物學論争における統計學關係の議論(主としてネムチーノフ及びその批判)
- (5) 1948年10月 經濟研究所主催の經濟理論を主題とする討論會
- (6) イー・ピサーレフ「統計理論の若干の問題」『經濟學の諸問題』1948年第7號
- (7) テー・コズロフ「統計學におけるブルジョア客觀主義と形式主義に反對して」『經濟學の諸問題』1949年第4號

2) 讀者の便宜のため、本文は日本語で示し、註に原題を出来るだけ詳しくいれておく。

- (1) Т. Козлов, Против отрыва статистики от практики социалистического строительства (Г. С. Крейнин, Курс статистики в кратком изложении, Госпланиздат, Москва, 1946 г.), «Плановое Хозяйство», No. 2, 1948 г.
 - (2) Передовая—Улутешить оретическую работу в области статистики, «Плановое Хозяйство», No. 3, май-июнь 1948 г., Госпланиздат, Москва.
 - (3) Расширенная сессия учёного совета Института экономики Академии наук СССР. Протокол в «Вопросы Экономики» No. 5, 1948 г. (現在の私の手許にその表題の控えがないので、正確な表題を傳え得ない。
 - (4) この論争については最近ナウカ社から發刊されたというルイセンコ論争に関する書物の中 Немчиновの言論及びその批判の部分を見られたい。
 - (5) О недостатках и задачах научно-исследовательской работы в области экономики, «Вопросы Экономики», No. 8 и 9, 1948 г.
 - (6) И. Писарев, Некоторые вопросы теории статистики, «Вопросы Экономики», No. 7, 1948 г.
 - (7) Т. Козлов, Против буржуазного об'ективизма и формализма в статистической науке, «Вопросы Экономики», No. 4, 1949 г.
- 以上の中(2)(3)(5)については國民經濟研究協會作成の、(6)については統計研究會作成の邦文紹介資料がある。ついで見られたい。

II 自己批判の内容、諸成果

では、それらの文獻を通してうかがうことのできる、統計學界におけるコスモポリティズム批判としての自己批判の具體的内容は、いかなるものであろうか。それらを要約して列挙すれば以下の如くである。

- (1) 祖國の統計學的傳統についての論議。
- (2) レーニン、スターリンの統計學および統計的實踐への寄與についての論議。
- (3) ソ連邦における統計的實踐の評価。
- (4) アメリカ合衆國を主とする資本主義諸國の統計的實踐の過大評價への批判といわゆる「ブルジョア統計」の辨疏的性格の曝露と批判。
- (5) アメリカ的統計方法の無批判的採用、いわゆる形式的數理的偏向、の批判。
- (6) 統計および統計學がソ連邦の社會主義的實踐へたちおけていることに對する批判。ソ連邦統計學界の諸新課題の確認。

これらを通じて一貫してうかがわれるものは、社會主義體制の質的な優越性と一般的危機における資本主義の腐朽的性格とが、統計學及び統計的實踐の分野においてもはっきりと現われているという強烈な主張である。これを外國側のいわゆる「ブルジョア學界」より見れば、色濃い政治性とソヴェートの愛國主義といわれるであろう。以下において、これらの各項についてできるだけ客觀的に、ソヴェート文獻の主張を追って概説しよう。

(1) 祖國の統計的傳統についての論議。

多くの統計學著書が、祖國の統計的傳統を無視したといふかどで批判された。それらを列挙すると、ポヤルスキー『人口統計教程』1945年、カブルコフ『統計學』モスクワ1922年、ネクラシュ『統計一般理論教程』ゴスプラン發行 1939年、ニキーチン『ソ連邦史文獻學』1940年、レオントビッチ、グリゴリエフ、マンジューク共著『變量統計學』1935年、ネムチーノフ『農業統計と一般理論的基礎』1945年、等である³⁾。また、統計學におけるコスモポリト達が見のがしたという、

3) А. Я. Боярский, «Курс демографический статистики», Госпланиздат 1945г.; Н. А. Каблуков, «Статистика», Москва 1922г.; Л. В. Некраш, «Курс общей теории статистики», Госпланиздат 1939г.; С. А. Никитин, «Источниковедение истории СССР», т. II. Соцэкгиз, 1940г.; А. В. Леонтович, Г. А. Григорьев, А. И. Мандзюк, «Вариационная статистика», Сельхозгиз, 1935г.; В. С. Немчинов, «Сельскохозяйственная статистика с основами общей теории», Сельхозгиз, 1945г.;

シヤのすぐれた統計學者達は、コズロフのリストによれば、次の如くである。——ロモノソフ、チェブイシェフ、ジュラフスキー、クラフト、ポロシソフ、ブニャコフスキー、セミヨノフ・チャンジャンスキー、ヤンソン、チュプロフ、等々⁴⁾。これらの「偉大なる」人々とその業績との無視について、コズロフはきわめて高い調子の非難をなげつけている。——「わが祖國の敵は、ロシアの學者の發見を横取りしておりながら、ロシアの文化や科學は独自の意義をもたないかの如く傳えた。民族の裏切者達は外國人に屈從して、ロシアの科學と文化の成果を非難し、祖國の科學文化に大きな害悪をもたらした。統計の分野においてもこうした事態がおこった。」

ロシアの偉大なる統計的實踐の典型的なものとして、かの、有名な、ゼムストヴォ統計《Русская земская статистика》が、レーニンの讚辭とともに、前へおし出される。⁵⁾「わが國のゼムストヴォ統計は、個々の資料が著しく完全な點でも、その加工の詳細な點でも、ヨーロッパの部分的なアンケートや調査よりはるかにすぐれている。ロシアのゼムストヴォ統計は、既に早くから、農家個別調査 подворное обследование や各種の分類表、またわれわれが既に述べたところの組合せ表等を取りいれている。ヨーロッパ人がもっとよくわがゼムストヴォ統計を知るならば、おそらく社會統計一般の進歩の大きな刺激となったであろう。」(レーニン)⁶⁾

(2) レーニン、スターリンの統計學および統計的實踐への寄與についての論議。

ソヴェート統計學界は、その批判者達によって、レーニン、スターリンの統計學および統計的實踐の分野における偉大なる寄與を忘れていた、とされる。そして次の點に今後の注意が要求されている。

a) レーニン、スターリンは統計の方法論的諸問題の、新しい、純科學的な、解決を與えた。彼等は社會經濟統計理論の基礎を確立し、社會經濟學的分析を基礎とする具體的大量社會現象の科學的研究におけるその役割と

地位とを指示した。その際の彼等の考え方の要點は第一に、группировка (ドイツ語で言う Gruppierung 日本語で言えば分類) の重要性の強調(レーニン)あるいは、平均値利用の際における地方的偏差へ注意すべき旨の指摘(スターリン)⁷⁾として要約される所の、質的區別、社會經濟的考察の重要性についての指示と、第二に、特にスターリンの1938年の勞作「辯證法的=史的唯物論について」に凝集的年輪的に示されている統計學方法論としての辯證法的唯物論の確立とに、在ると思ふ。これらのレーニン、スターリンの勞作、および諸斷片、ことにレーニンの「統計と社會學」《Статистика и социология》⁸⁾、スターリンの「辯證法的=史的唯物論について」スターリン《О диалектическом и историческом материализме》1938 г.への注意が要求される⁹⁾。

b) レーニン および スターリン は社會主義建設における計算と統計の役割と意義とを指示しその重要性を強調した。¹⁰⁾ 彼等の指示にしたがってソヴェート統計機構が建造された。イー・ピサーレフは、統計學を論じた彼の論文の中で「1948年7月25日は、レーニンが國家統計の指令に署名した日から満30年目である。」と述べてレーニンを記念している。

c) レーニンはソヴェートの經濟學者達に、統計驅使の實例を與えた。今日残っているレーニンの大作『ロシアにおける資本主義の發展』その他にはいわゆるブルジョア統計が縦横に驅使されつつ、ポリシエヴィキ黨の綱領決定の仕事に役立っている。今次の自己批判においてはその點が多くの人々によって強調されている。

(3) ソ連邦における統計的實踐の評価。

「ソヴェート統計——それは世界におけるもっとも先進的な統計である。ソヴェート統計の最大の優越性は、それが計畫化された社會主義國家の統計である點にあ

7) см. Сталин, Вопросы Ленинизма, изд. 11-ое, стр. 256.

8) Ленин, Статистика и социология, Сборник т. 30.

9) Ленин の統計學方法論關係の勞作をあつめたもの, Комакадемия. Общество статистиков-марксистов; 《Статистика в работах В. И. Ленина》, Сборник составил В. Д. Чермонский. Под редакцией и предисловием М. Н. Смыт. М. — Л. Соцэкгиз. 1931. がある。

10) これについては, см. Ленин, Очередные задачи советской власти, 《Избранные Произведения》, т. 2, стр. 306—309; Сталин, Сочинения, т. 6, стр. 214.

4) М. В. Ломоносов (1711—1765); П. А. Чебышев (1821—1894); А. П. Журавский (1810—1856); Л. Ю. Крафт; В. С. Порошин; В. Я. Буняковский; П. П. Семёнов-Тяньшанский; Ю. Э. Янсон (1835—1893); А. И. Чулков (1874—1926)

5) Т. Козлов, Против буржуазного объективизма и формализма в статистической науке, 《Вопросы Экономик》, No. 4, 1949г.

6) Ленин, Аграрный вопрос в критике Маркса, Сочинения т. 5, изд. 4-ое, 1946 г., стр. 195.

る。』¹¹⁾ ゴスプランの機關誌『計畫經濟』誌はコスモポリティズム批判ののろしをあげつつ、ソヴェート統計の「優越」を高らかに宣言する。この様な「優越」のよって来る所は何か。第一が、生産手段に対する社會的所有であり、したがっていわゆる「ブルジョア統計」の最大の缺陷の一たる企業の秘密からくる Bias の缺如であり、第二は、國民の精神的政治的統一である。——「ソヴェート國民は、生産計畫の遂行率や、労働生産性の増大や、生産原價の低下等の指標を注意深く考慮するのである。」(Козлов) 第三は、生産手段に対する社會的所有によって可能となった國民經濟の國家的計畫化である。「わが國においてはじめて人類は、科學的基礎をもつ國民經濟の單一計算制度を創造したのである。」(Козлов) 計畫經濟にもとづく統計活動の敏速性と正確さについて、《Плановое Хозяйство》の1948年第3號は云う。——「尨大な國全體の重要工業と交通部門の毎日の労働量が、翌日中には集計せられている。一、二週間で全經濟部門の労働總量を集計することが出来る。のみならず、中央の計算を地方統計機關の報告と對照して慎重に審査することの出来る國は、ソ連邦だけである。」第四に、このような事實的優越性に加えて、ソヴェートの統計活動は、レーニン スターリンの名ともよばれる、社會主義經濟學によって指導されている、と。

(4) アメリカ合衆國を主とする資本主義諸國の統計的實踐の過大評價への批判といわゆる「ブルジョア統計」の辯疏的性格の曝露と批判。

ネムチノフ、ネクラシュ、ウルラニス等々が、主として合衆國センサスの讚美者として斷罪され、その際、告發者達はレーニンの合衆國センサスの方法についての批判、たとえば1910年センサスについての批判(Соч. т. 22, стр. 48. стр. 22.)をもち出している。「ブルジョア統計」に対する批判は更に進んで、たとえばカツ A. И. Кацにおけるごとく、労働統計を中心として、現在の「ブルジョア統計」そのものの辯疏的性格の批判に向けられる。1948年3月—5月におこなわれたソ連邦科學アカデミヤ經濟學研究所擴大學術會議 Расширенная сессия Учёного совета Института экономики Академии наук СССР の結語においてオストロヴィチャノフ Г. В. Островитянов はブルジョア統計資料の無批判的利用から出ずる害惡の一例として舊世界經濟及世界政治研究所の勞作を追及している(《Вопро-

11) 《Плановое Хозяйство》1948, No. 3, Передовая.

сы Экономки》No. 5, 1948 г.). 今後「ブルジョア」統計に対する批判の活動はソヴェート經濟學界においてますます盛行するであろう。

(5) アメリカ的統計方法の無批判的採用、いわゆる「形式的數理的偏向」の批判。

ここでの批判は、レーニンの Группировка の重要視とスターリンの平均値使用における地方的偏差重要視の主張と結びついて出ている。統計的觀察、數量的傾向の檢出、平均値の算出、大數法則の抽出、確率論の研究、ストカスチカ的分析、等々は、社會經濟的考察、質的區別、Группировка、具體的記述的資料、等々に從屬し、結合し、その補助的手段とならなければならない。その見地から、たとえば國民所得に関するクレニン Крейнин の研究は資料に対する過度の數學的加工の由を以て中央統計局 ЦСУ のペトロフ A. И. Петров によって非難され(《Вопросы Экономки》No. 5, 1948 г.), ネムチノフはルイセンコ學説をめぐる論争に一人の非生物學者として、統計學者として参加し、生物學における特殊な發展法則への洞察のかわりに、分布曲線に関する統計法則をもちだしてルイセンコを駁撃した故を以てきびしく咎められ、又、彼は、アメリカ學界における有力誌の一つたる《Econometrica》の方法を輸入せんとして批判された(《Вопросы Экономки》, No. 5, 1948 г.). 批判の矢は、多くの統計學教科書へ向けられ、多くの數學的公式で餘りにも多くみだされている統計學教科書の全系列がとり出されて、批判され、最後に、社會經濟統計の獨自の分野の確立と、「重點を統計=經濟學の問題に移す」こと(Козлов)とが要求される。——「社會經濟統計の《數學化》のくわだては統計學から數學を全然おい出す試みと同様に正しくない。」(Козлов)

上に述べた様な數學的=形式的偏向への批判が、ソ連邦統計學界および統計的實踐にとっていかなる意味を持つかについては、われわれ國外の研究者としては簡単に結論は出し得ないし、又、してはならないと思う。卒然として、これらの批判論調に接する場合、われわれは、どうしても、統計學の方法が政治というプロクラティーズの寢床にすえられて否應なしに手を切られ足を切られているような感じを捨てがたいのである。ただ、この際、たとえばスタハノフ運動における労働生産性の問題についてのストカスチカ的分析や、第十八回黨大會が企業に対して指令した計畫完遂の均等性指令に対するポヤルスキー教授の大數法則を根據としての反對等々の事例がゴズロフによってとり出されているが、この様なことがあるとすれば、曾てのグロマン Громан の五ヶ年計畫案

作成における減減曲線の主張と同様、單なる理論の問題を超えて居り、理論がプロクラティーズの寢床にのせられることも亦、やむを得ないとも思われる。

(6) 統計および統計學がソ連邦の社會主義的實踐へたちおくらせていることに對する批判。ソ連邦統計學界の諸新課題の確認。

上の如き自己批判の最後の結論は、一切の統計活動を祖國の社會主義的實踐へ密着せしめよというスローガン、「正しい數字のための闘争」(《Плановое Хозяйство》 1948 г. No. 3.) のスローガンである。ソヴェート統計學界は、從來のその活動がソ連邦の社會主義的實踐へ密着していなかったことを、自己批判する。かかる批判は、今後の新課題として解決されなくてはならない。それらは、次の如くである。

- (1) 國民經濟計畫の遂行率の計算。
- (2) 物質的ファンド配分計畫とそのバランスの計算(資本建設の大いさ、基本ファンド投入の大いさ、主要起動物資の投入、基本ファンドの評価、等)。
- (3) 國民經濟における新技術の導入と發展の計畫の計算。
- (4) 國民經濟決算バランスの構成に關する問題の研究(決算バランス構成の方法、構成的指標と個々の部門の發展テンポ比較の方法)。
- (5) 社會的生産物、すなわち國民經濟の各部門の總生産と純生産に關する統計の問題の研究。
- (6) 國民所得の生産と分配とに關する問題の研究。
- (7) ソヴェート經濟指數の體系(物理的生産量の指數、卸賣・小賣物價指數、コルホーズ取引價格指數、資本建設の物理的大いさの指數、工業生産および建設の原價指數、流通費用の指數、勞働生産性の指數)をつくること。
- (8) 上の諸指數によるソ連邦における價格法則の研究。

以上のものがソヴェート統計學界に要求され、そのために必要な研究施設、研究雜誌の開設等が提唱されている。これらの諸課題を通觀して言えることは、ソヴェート統計學界の基本的な關心が、社會經濟的側面へ著しく傾むいていることである。しかもかかる諸新課題は、ソヴェート連邦經濟學界における最近の中心的問題たる國民經濟バランス論および價值=價格法則理論にかかわつて見られる。この二つの相互に關連し合う基本的理論的な問題は、ソヴェート統計學界が實證的資料を提供することによって、その正しい一步前進を約束されるのであって、その意味において、ソヴェート統計學界が上に見たような課題を自己の前においたことは、その限りにおいて、ともかく生産的な方向を目指していると言えるのではあるまいか。

最近の英米的な、きわめて精緻な、數理統計のラビリンスをたのしんでいる人々にとつては、今次のソヴェート統計學界のいわゆる自己批判は、その發生の動機から見ても、また、その議論の内容から言っても、いたずらに政治的呼號のみが多く、理論的な議論と證明とが少くないというふうに見られると思う。たしかに、少くともわれわれの手にし得る文献から判斷する限りにおいては、そうである。しかしながら、ソヴェート經濟の發展のあり方、計畫經濟と統計學・統計活動との結びつきの歴史的經過を、洞察し理解した場合、その様な外部からの判斷がどのような妥當性をもたらすか。卒直に言って、私には疑問である。——好むと好まざるとにかかわらず統計學の世界においても「二つの體制」の問題がはっきりと看取されるのである。それを解決するものは歴史それ自體の流れ以外にはない。ここでは、ただ、表面にあらわれた諸事象について、單なる解説を與えることだけが、私の仕事であった。私は最後まで、その分を守ったつもりである。

(野々村一雄)